

今月号の主な内容は、

○工事の進捗状況等  
・フィルタベント設置工事

○津波対策工事ほか追加工事における、静岡県と御前崎市による点検および確認です！



## 【工事の進捗状況等】

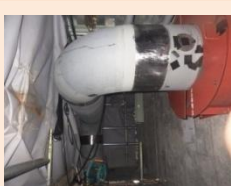
### ○フィルタベント設置工事

万が一の際には、格納容器の破損防止のため、格納容器内の気体を外部へ放出（格納容器ベント）して圧力を下げる必要があります。この際、粒子状の放射性物質（セシウムなど）の放出を低減して長期的な土壌汚染を防止するため、フィルタベント設備を設置します。

現在、フィルタベント設備の配管設置工事を進めています。



既設配管とフィルタベント配管の接続部



原子炉建屋貫通部



排気筒に設置した配管



排気連絡ダクト（地下）



原子炉建屋貫通部工事の様子  
(H26.7の写真【H27.9全7ヶ所完了】)

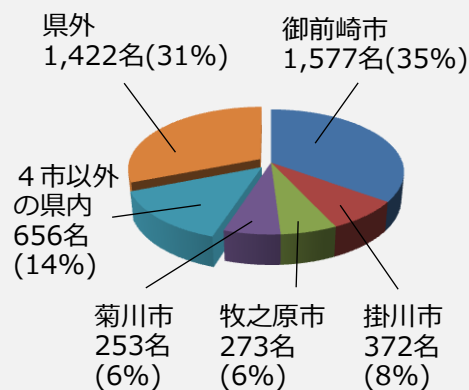


フィルタベント容器  
(H27.3設置)

### 浜岡原子力発電所従事者数 (6月1日現在)

4,553名（安全性向上対策工事従事者以外を含む）

【御前崎市・牧之原市・掛川市・菊川市在住：2,475名(55%)】



## 【津波対策工事ほか追加工事における、静岡県と御前崎市による点検および確認】

54回目となる5月31日、4号機海水熱交換器建屋内にて被水防護カバーの設置工事および水密扉の追設・補強工事について点検を受けました。

静岡県から、「被水防護カバーの設置工事および水密扉の追設・補強工事について、中部電力の計画どおり進められていることを確認した。また、安全上重要な機器の機能を維持するための対策がしっかり進んでいることを確認した。現場では様々な工事がおこなわれているため、労働安全および火災防護に十分留意して進めてほしい。」との講評をいただきました。

御前崎市から、「工事が確実に進み、4号機の工事の完了が近づいている。これから夏に向けて熱中症防止対策を図り、作業員の安全に十分留意して工事を進めてほしい。」との講評をいただきました。



被水防護カバーの設置工事  
点検の様子



海水熱交換器建屋水密扉の  
追設・補強工事点検の様子

55回目となる6月14日、免震構造物（緊急時ガスタービン発電機建屋）への地震観測装置設置、送電鉄塔の支持がいしの取替、建屋内照明確保のための電源内蔵非常用照明追設について点検を受けました。

静岡県から、「本日点検をおこなった3つの項目について、中部電力の計画どおり工事がおこなわれていることを確認した。いざと言うときに必要となる設備であり、必要な場合に作動するよう、今後の保守も確実に実施してほしい。」との講評をいただきました。

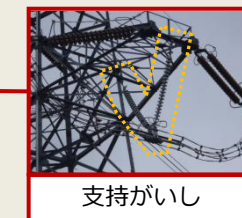
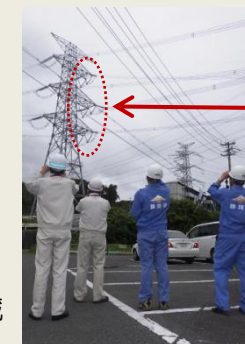
御前崎市から、「市民は安心・安全のために、一刻も早い安全対策の完了を望んでいる。これから夏に向かって暑くなるが、熱中症対策などの安全衛生対策も積極的におこなうことで、工事が中断することのないよう配慮して頂きたい。」との講評をいただきました。



免震構造物への地震観測装置  
設置点検の様子



建屋内照明確保のための電源内蔵  
非常用照明追設点検の様子



支持がいし

送電鉄塔の支持がいしの  
取替点検の様子

## 【審査会合】

原子力規制委員会による新規制基準適合性確認審査を受けています。  
(3,4号機を申請中ですが、現在4号機の審査が進められています。)

＜4号機の進捗状況＞

(平成28年6月27日現在)

| 項目 | 地震・津波等に関する事項    | プラントに関する事項 |
|----|-----------------|------------|
| 回数 | 計14回<br>合同で2回実施 | 計52回       |

審査は、地震・津波等に関する事項とプラントに関する事項に分けておこなわれています。今後も、原子力規制委員会による審査に真摯に対応し、新規制基準に適合していることを早期にご確認いただけるよう努力していきます。

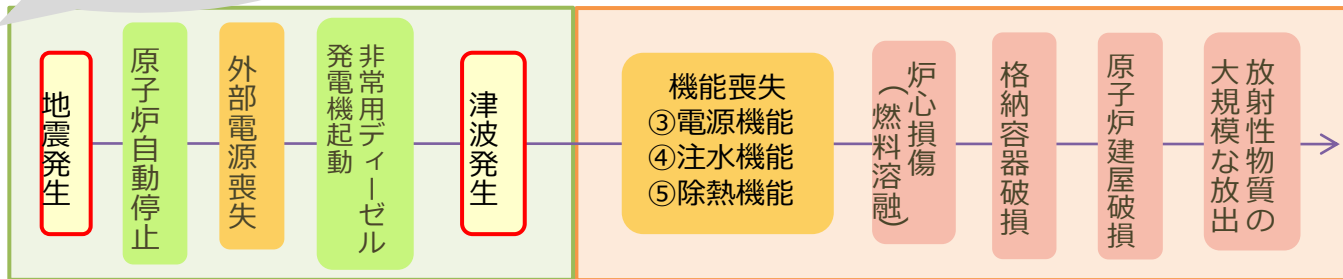


# 発電所の安全性を更に高めるための取り組み【概要】

福島第一原子力発電所の事故の教訓から、発電所では地震や津波等の様々な事態に対処するために、設備の追加配備や現場対応力の強化をおこなっています。主な取り組みをみなさまへ紹介いたします。

## ①福島第一の話

福島第一原子力発電所の事故の場合は、以下のように事象が進展しました。



発電所では、福島事故の前から電源や注水、除熱の機能をもつ設備を多重性・多様性をもって配備していますが、事故以降、様々な追加対策を講じ、更に発電所の安全性を向上させています。

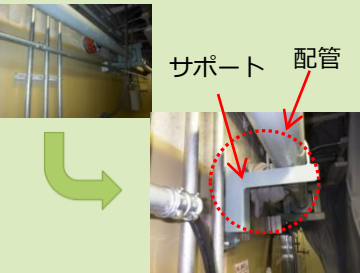
## ②設備の話

従来の設計基準の事故に加えてより厳しい想定 of 重大事故に対処するため、様々な事態を想定し、対策を実施しています。また、対策に柔軟性を持たせるために、備え付けの設備だけではなく、可搬型の設備も配備しています。

【主な設計基準対策設備】原子炉施設の安全を確保するための機器が、一斉に機能喪失しないようにします。



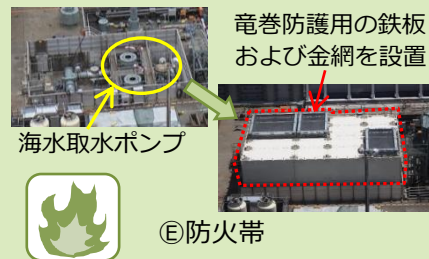
地震に耐える。  
④配管サポート



津波を浸入させない。  
⑤防波壁 ⑥大物搬入口



自然災害に備える。  
⑦飛来物防護対策 (竜巻対策)



【主な重大事故等対策設備】重大事故等の発生に備え、冷やす機能を確保し、重大事故に至らないようにします。また、重大事故等の発生を想定し、事故の進展を防ぐ機能を強化しています。

電源機能強化



恒設



⑧ガスタービン発電機

注水機能強化



⑨緊急時淡水貯槽

除熱機能強化



⑩緊急時海水取水設備

可搬



⑪交流電源車



⑫可搬型注水ポンプ車



⑬可搬型取水ポンプ車

重大事故時に柔軟に対応するため、可搬型車両やその保管場所を確保し分散配置します。対応現場へ出動できるよう、複数のアクセスルートの確保に取り組んでいます。

## ③現場対応力の話

配備した設備が期待通りの機能を発揮するためには、扱う「人」の「現場対応力」が必要だと考え、強化しています。

### 【初動対応の強化】

緊急時即応班の立ち上げ準備をおこなっています。

24時間  
365日体制

緊急時に特化した  
幅広い対応力



(現在11名)

役割  
・戦略検討  
・アクセスルート確保  
・可搬設備の操作等  
現場対応

### 【手順の整備・資格の取得】

設備導入に伴い、必要な手順の追加や免許等の資格の取得をおこなっています。



<取得免許例>

・大型自動車免許  
・けん引免許  
・移動式クレーン免許  
・危険物取扱者 (乙種4類) など

### 【資機材の充実】

発電所での活動に支障をきたさないよう様々な資機材を配備しています。

配備数を見直し、必要に応じて追加しました。



シンチレーション  
サーバイメータ

タイベックスーツ

【訓練の充実】目的に応じて様々な事故・事象への対応を網羅的に確認・強化し、緊急時に対応する組織の能力を総合的に向上させます。

### 総合訓練



主に現場や発電所外との連携、対応手順の確認を目的に実施しています。

### 図上演習



判断能力の向上を目的とした訓練を平成27年度から実施しています。

### 現場訓練

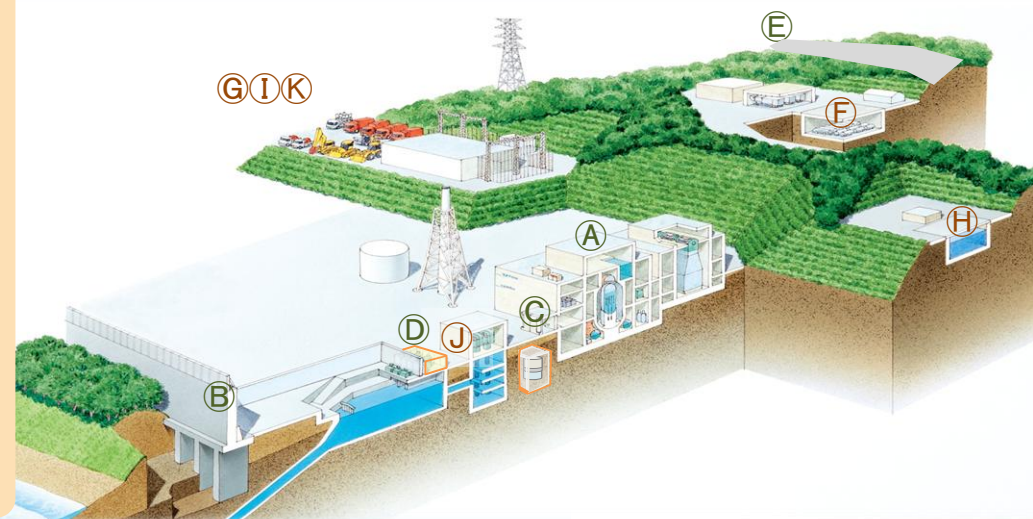


シミュレータ  
訓練



電源車操作  
訓練

新たに設置した設備の手順を確認するとともに、可搬設備の操作等に必要力量の向上に努めています。



浜岡原子力発電所では、4号機は平成28年9月、3号機は平成29年9月完工を目標に工事を進めています。また、配備された設備が期待どおりの機能を発揮することができるよう現場対応力を強化しています。今後とも、更なる安全性の向上に努め、地域をはじめ社会のみなさまから、より信頼される発電所を目指して取り組んでまいります。